学校番号	320

令和８年度　教職トライ科

教科	教職トライ	科目	(学)現代文授業研究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	新成現代文　大学共通テスト対策新装二版（尚文出版） 読解現代文必携　キーワードの卵（尚文出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現代文の読解や語彙の確認を通して国語の力を身に付けることを心がけましょう。
・話し合いや教え合い、文章記述など、アクティブな活動を取り入れた授業を行います。
・漢字をはじめとする基礎的語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けて応用してください。
・本文中の意味の分からない語句は辞書で調べましょう。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

・教材の選択に際しては、生徒の興味が湧き出るような教材を選び、語彙を増やし、正確な漢字の読みと書き取りの力をつけていく。評論では、現代のキーワードにつながる評論を取り上げ、時代を理解する基本的な考え方をまず認識できるようになること、さらに、一面的でない捉え方や自分の思考を深めて発展させていくことを目指す。
・以上のように、様々な文章の精読によって、豊かな言語感覚と多様な価値観を養い、お互いの意見や感想を交換し批評する力（伝え合う力）、互いに教え合う力を身につけ、他者との円滑なコミュニケーションを図ることのできる力を養っていくことを到達目標とする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を延ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	評論① ［教材］ 「日本のデザイン」 「私の読書法」 「日本語の感覚」 「目玉の学校」	a:常用漢字の読みに慣れ、書くことにも取り組んでいる。 b[　話/聞　]:内容や構成を理解している。 c:コミュニケーションをとって、自分の経験を話し合おうとしている。	小テスト	ワークシート	グループワーク
二学期	小説① ［教材］ 「光ってみえるものは、あれは」 「猛スピードで母は」 「荒絹」 「ひなまつり」	a:文学的な文章について、場面や登場人物を正確に把握している。 b[　読　]:自分の意見、考えを深めている。 c:自分の意見をまとめようとしている。	小テスト	ワークシート	ワークシート
	評論② ［教材］ 「大江戸えねるぎ」 「道徳性とは何か？」 「大人」 「キャラ化する／される子どもたち」	a:文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしい文体や語句、表現の技法が用いられているかどうかを考察しようとしている。 b[　書　]:自らの意見や考えを述べようとしている。 c:自分の意見を他者に分かりやすく伝えようとしている。	小テスト	ワークシート	発表
三学期	小説② ［教材］ 「ギンヤンマ、再配置プロジェクト」 「欠けた月」 「透明な鳩」	a:実社会において必要な語句や表現を理解しようとしている。 b[　読　]:音読において他者と協働しようとしている c:本文を踏まえて自分の生き方についての考えを深めようとしている。	小テスト	ペアワーク	ワークシート

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準ｂ[　]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　１０～２０　）時間

・書くこと　…　（　３０～５０　）時間

・読むこと　…　（　３５～５５　）時間